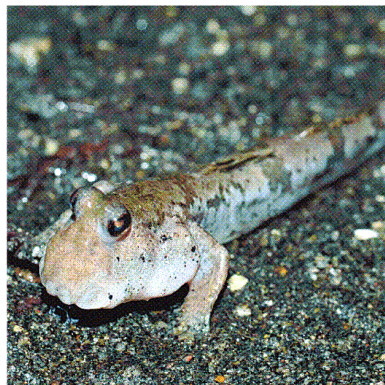
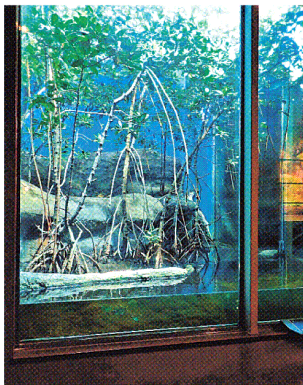
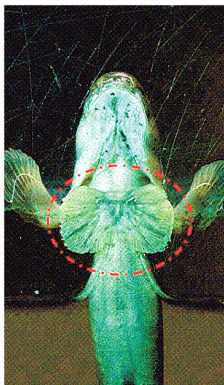




(写真左から) トビハゼの腹びれ(赤丸の部分)でガラスなどにくっつくことができる▷トビハゼがいるマングローブ水槽▷愛きょうのある姿をしたトビハゼ

トビハゼ

学名 *Periophthalmus modestus*

分類 スズキ目ハゼ科
分布 朝鮮半島、中国、台湾。国内では東京湾から種子島、沖縄

食性 カニやゴカイなどの小動物を食べる肉食

特徴 成長しても全長10センチほどの小型のハゼの仲間。河口域の泥の干潟に生息し、周囲の泥に溶け込む灰褐色の体色をしている。目が上部に突出し、他のハゼの仲間と同様に腹びれが吸盤状になっている。

魚なのに水が嫌い？

トビハゼは、かごしま水族館1階にある「マングローブ水槽」で展示しています。水槽をよく見ると水の中よりも、ぬれた泥の上や流木、石の上などに多くいます。

掃除のため中に入ったスタッフに驚き、水に飛び込むことがありますが、見事なジャンプで水面を跳びはね、吸盤状になった腹びれで反対側のガラスにくっつきます。そ

うの様子は本当に水が嫌いなように見えます。好き嫌いは魚自身に聞かないと分かりませんが、魚なのになぜ空気中

で行動できるのでしょうか。その秘密の一つは呼吸法にあります。魚は、えらを使って水中に溶けた酸素を体内に取り込む呼吸を行っています。トビハゼにもえらは

おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

あるのですが、空気中の酸素を体の表面から取り込む呼吸もできるのです。もう一つは移動法です。

魚は体やひれを動かして水中を泳ぎますが、陸上では泳ぐわけにはいきません。トビハゼは泥の上をはうように移動します。左右の胸びれは筋肉が発達しており、前後に動かして進みます。それだけでは泥との摩擦で進みにくいため、腹びれを支えにして体を「く」の字に曲げて、おなかを浮かします。逃げる時などは発達した筋肉を使って、ジャンプを繰り返して素早く移動することもできます。

驚かさないようにじっくり観察してみてください。臆病ですが、慣れてくるとさまざまな興味深い動きを見せてくれると思います。(展示課 魚類展示係主任・山田守彦)